

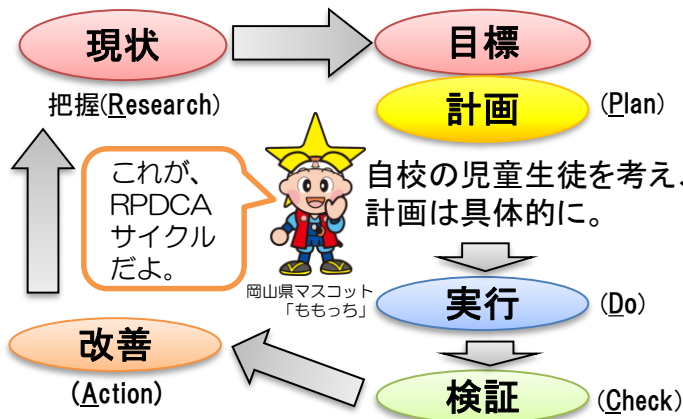
新しいスタート、チームで取り組むRPDCA

皆さん、こんにちは。岡山県教育庁義務教育課です。今年度も、皆さんの学校現場で役立つ情報や県内外で行われている取組などを、この通信で紹介していきます。今回は、全国学力・学習状況調査を最大限に活用できるように、今年度の調査の特徴とRPDCAサイクルを生かした1年間の改善の流れを紹介します。

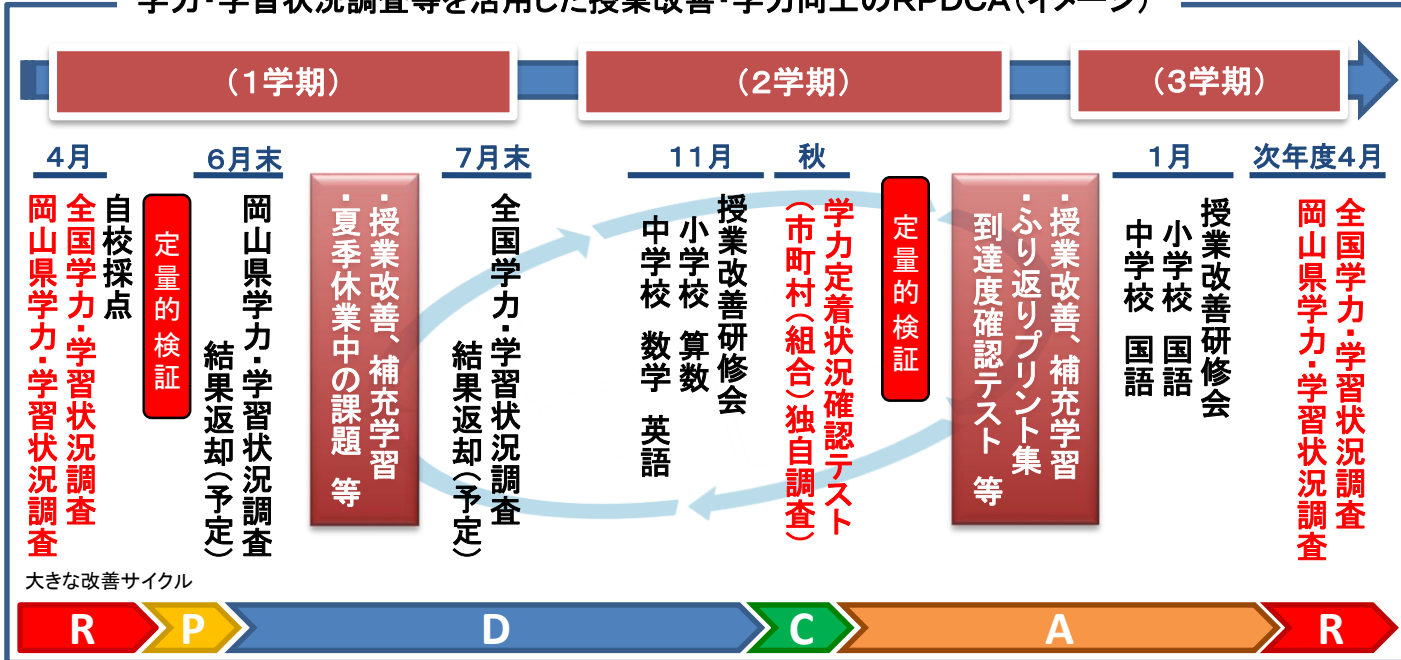
今年度の学力・学習状況調査の特徴

平成29年3月に公示された学習指導要領は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」という資質・能力の三つの柱が相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。

今年度の調査は、この学習指導要領の趣旨を踏まえ、A問題とB問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問うものとなっています。



学力・学習状況調査等を活用した授業改善・学力向上のRPDCA(イメージ)



学力・学習状況調査と秋の調査等の結果から、児童生徒の現状を継続的に把握 (Research) し、改善に向けた取組の成果を検証 (Check) することで、その取組をさらに充実・徹底させることができるね。これがRPDCAサイクルの、メリットなんだよ。

全国及び県学力・学習状況調査活用のために大切なこと

- 「学力・学習状況調査を解いてみよう」
実際に調査問題を解いてみると、たくさんの発見があります。
- 「同学年、同じ教科の先生と話し合ってみよう」
チームとして話し合うことで、方向性や課題を共有できます。
- 「自校採点に取り組もう」
自校採点をすることで、児童生徒の現状やつまずきが把握できます。

チーム「学校」、チーム「岡山」で、児童生徒のために、一緒に取り組んでいきましょう。



★ 今回は、生徒の現状やつまずきを把握・分析するために行う学力・学習状況調査の自校採点の活用方法を紹介します。